



つづく つながる 夢を育てる学び舎
国立二小だより

令和8年(2026年)2月27日

国立市立国立第二小学校

校長 内田 辰彦

伝統の継承

校長 内田 辰彦

2月18日の3時間目に5、6年生が校庭に集まりました。6年生が司会・進行して5年生に二松ソーランを伝える引継式を行っていました。二松ソーランとは、二小の運動会で踊り継いでいるソーラン節のことです。昨年のこの時期にも、今の中学1年生が今の6年生に向けて、引継を行っていました。今年はその6年生が5年生に向けて二松ソーランの踊り方を伝えていました。自分たちが作った藍染の法被を身に纏った6年生は、始めに手本の踊りを見せます。そのあとで、よい例とよくない例を示して、分かりやすく踊りのコツを伝えます。次に6年生全員がグループに分かれて、全員の5年生に対してグループごとに小集団で踊り方を伝えていきます。最後に、5年生と6年生が一緒になって、1曲を通して踊り通します。1曲踊ったところで引継式を終えました。伝わったものは踊り方のコツだけではなく、踊りに対する気持ちや学年全体で取り組むこと・仲間との絆の大切さなどもきっと5年生に引き継げたと思います。6年生の着た藍染の法被の裾が、誇らしげに風になびいていたのが印象的です。

2月19日には、縦割り活動のお別れ会を行いました。1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生での、今年度最後の縦割り活動です。いつもは朝の15分間を使って行っていますが、この日は45分間の1単位時間を使って活動しました。前半はそれぞれに工夫した最後の活動をして、後半は特に下学年から上学年への感謝の気持ちを伝える場としました。上学年は年間を通して、下学年の子が安心して楽しく活動できる内容を考え、準備をして活動していました。そのことに対して下学年の子が感謝の気持ちを言葉にしたり手紙にしたりして伝えていました。3年生までは、上学年と仲良く遊ぶことを通して、リーダーとしての役割や役割に応じた活動の仕方を学んでいきます。4年生からは上学年としての役割を担い、その責任を果たそうと努めていきます。特に今回のお別れ会では、3年生は4年生への感謝の気持ちを表すとともに、4月からは4年生として上学年としての役割を果たしていく期待感を持ちながら自分たちの気持ちを伝えていました。

3月に入ると現5年生を中心に来年度のクラブ活動作りが始まります。5年生は自分たちが活動したいクラブを考え、仲間を集め、一定の人数などの条件を満たしてクラブを作っていきます。5年生がリーダーシップをとりながらすすめていきます。

このような活動を二小では毎年行っています。こういった活動を通して、上学年としての役割を自覚し、役割に応じた気持ちになったり行動をとったりするようになると考えます。また、特に6年生になると、最高学年として色々な場面でリーダーシップをとることになりますが、5年生の今くらいの時期から徐々にその自覚が高まっていると思います。

3月になり、学年末の時期になりますが、この1か月でどの学年の子も大きく成長します。そして4月には一つ上級生になってスタートが切れるのだと考えます。よい伝統が継承されていきます。

